

はくあい

No.41

2015. January

社会福祉法人
京都博愛会

富田理事長が

「京都府知事表彰」を受賞！

昨年11月13日、京都府公館に於いて、理事長富田哲也先生が平成26年度京都府保健医療功労者として山田啓二知事から表彰を受けました。

この表彰は地域保健医療部門で、長年に亘り地域の診療に従事すると共に、病棟増築や回復期リハビリテーション病棟の開設に尽力するなど、地域保健医療体制の充実と向上に貢献した実績が評価されたものです。



新年あけまして

おめでと〜うございます。



社会福祉法人京都博愛会理事長
富田病院 内科・循環器内科 富田 哲也

昨年10月より病床機能報告制度（自己申告+レセプト情報）が開始されました。

これは病床を有する全ての医療機関が病棟単位で都道府県へ実態を報告する制度であり、都道府県が主体となつて2025年超高齢社会ピーク時の医療需要を見据えて、平成27年度以降に地域毎の医療機能分化（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）を進めるため協議機関において地域医療構想（ビジョン）を策定し、医療の効率化を進めようとするものです。

私は昨春秋、京都私立病院協会50周年事業のひとつとして、医療の効率化を進め機能分化を推進しているフランス等のヨーロッパへ視察に行きました。ヨーロッパでは公的病院が多いことから、医療機能分化を進めやすかったと思いますが、患者さんが病気になる時にどここの医療機関でも受診できる「フリーアクセス権」がほとんどなく、窮屈な医療体制に見えました。それゆえ、今後策定される日本の地域医療構想では、十分な論議が必要だと思っています。

昨年11月に「平成26年度京都府保健医療功労者個人の部」で知事表彰を戴きました。個人とはいえ法人職員全員の努力のもとに病院の代表として選ばれたものと理解しています。医療介護界は今年も数多くの難問が続きますが、皆様のご指導ご協力のもとに本年も新たな気持ちで頑張りますので、よろしくお願いいたします。

【博愛】博愛の精神に基づいて、患者さまや地域の人々にやさしく、親しまれ、信頼される病院を目指します。

【協調】患者さまを中心に協調の精神でチーム医療を行います。

【健康】私たち自身の心と身体の健康に留意し、良い医療・介護・福祉を提供します。

基本理念

『緑内障手術装置「トラベクトーム」を導入しました!』

京都博愛会病院 眼科部長 上田 直子

このたび、京都博愛会病院眼科での緑内障手術に「トラベクトーム」を導入しました。京都では、京都大学、京都ルネス病院に次いで3か所目の導入です。

緑内障は視神経が障害され、視野が徐々に狭くなる病気です。障害された神経はもとに戻すことはできませんので、治療は進行を抑えることが目的に

なります。進行を抑えるためには、眼圧（目の硬さ）を下げるのが治療法となります。点眼のみで、眼圧が下がらず進行するときは、手術で眼圧を下げる必要が出てきます。

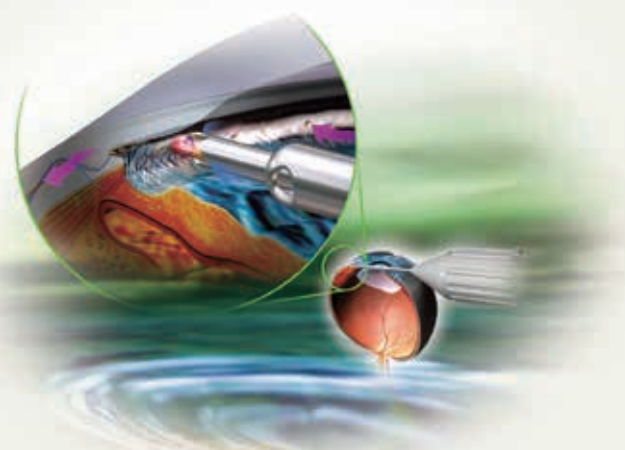
目の中では、房水という水が作られ、虹彩（茶目）と角膜（黒目）の間の隅角で、線維柱帯というメッシュワークを通りシュレム管という細い管に入り、血管の中に入って排出されていきます。多くの緑内障は、このメッシュワークが詰まり、眼圧が上がってきます。

緑内障の手術は、メッシュワークを針金のようなもので開いて目詰まりを取る「流出路再建術」と、強膜（白目）の上を覆っている結膜（薄膜）の下に新しい房水の流れを作る「濾過手術」があります。いずれも、強膜を切つて手術をする必要がありました。

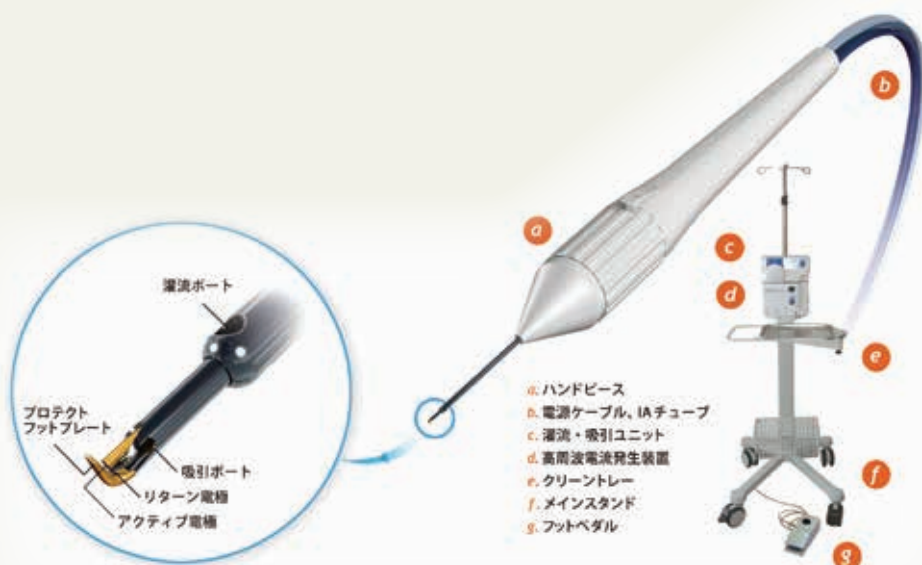
トラベクトームは結膜や強膜を切ることなく、角膜周辺に1.7mmの小さな穴を作り、そこより写真のような機械の先端を入れ、特殊なコンタクトレンズで房水の出口の部分を見ながら、シュレム管に保護用プレート差し込み、メッシュワークを蒸散させて取り除く手術です。

トラベクトームは流出路再建術の一つで、切開創も非常に小さく、現在行われている緑内障の手術の中では一番侵襲の少ない手術ですが、すべての緑内障に適応

があるわけではありません。流出路再建術は濾過手術より合併症は少ないですが、効果も弱いと考えられています。また、トラベクトームは眼内レンズが入っている目か、白内障手術を受けてない方は白内障手術も同時にする方が効きが良いと言われています。



[眼球断面図]





わが町のホームドクター

左京区 小谷 政子

地域と自分史に寄り添う病院

思えば私の人生の要所に博愛会病院と富田病院は関わっています。

昭和20年9月、栄養失調と脳膜炎を併発し、1歳1ヶ月で亡くなった弟は富田^{わし}精



先生御存命の頃の富田病院2階の当時和室相部屋でした。食糧難の時代、泣く元気も無く最期は側にある何でも口に持っていた小さな命を今でも思い出します。

翌21年5月には、父が喉頭結核により38歳の若さで逝きました。父が苦しむ度に、母が私を博愛会病院まで先生を呼びに行かせたのでした。小学生だった私は、又か！と歯を食いしばりながら、何度も夜道を走りました。当時、車は勿論、電話も近所になく峠道に街灯もありませんでした。結核は「死の病」と恐れられ、生卵と牛の血が効くと聞いた母は、一升瓶を持って屠場へ買いに行き、レバー状になるまで煮ていた時の強烈な匂いは私の脳裏から離れません。

父の逝去は抗結核薬が日本に入るほんの

少し前でした。当時、このような経験をした方はたくさんおられたと思います。でも、その記憶の側にはいつも誠心誠意接して下さった先生、看護師、スタッフの方々の姿がありました。

辛かった想い出とは裏腹に、いま私は最新の医療と熱心な医療従事者のもと、後期高齢者として富田病院の内科、博愛会病院の眼科で診察して頂く身となりました。生かされている縁の深さに感謝すると共に、戦中、戦後を知るものとして格段の医学の進歩に感激を覚えます。

どうか、これからも博愛精神と地域のドクターとして寄り添うような医療をと願うばかりです。

看護物語

脳卒中リハビリテーション看護 認定看護師を目指して

～今やるべきこと～

京都博愛会病院B棟2階（回復期リハビリ）病棟

主任

田中 祐子

「もっと何かできることがあるはず」そんな思いから、認定看護師を目指したことがきっかけでした。

脳卒中は突然の発症であり、今までできていたことができなくなる、といった障害を残すことが多く、患者さんや家族の受ける衝撃は計り知れないものがあります。回復期で完全に治癒して帰れるというイメージをもち、転院してこれられるという例も少なくありません。このような受容過程を経る患者さんや家族に対して、私たちには寄り添う看護と正しい知識、エビデンスに基づいた、質の高いリハビリテーション看護の提供を求められていると思います。障害の重さや受け止め方は個々によって違いますし、今までの生活習慣の理解や、残存機能を活かした、これからの新しい生活をイメージして個別に関わっていく必要があります。そのような看護が全てできていると感じていませんでした。

認定看護師には実践・指導・相談という3つの役割があります。急性期～回復期～維持期において看護の理解を深めて学び、特に病態の理解と効果的なリハビリテーションが理解できていなかったことを痛感しました。病態を理解していることで、予後予測を考えた退院指導も行えるようになりました。急性期からの経過と繋ぎ合わせて考えることで、行えるケアにも継続性を感じています。

まずは病棟での実践を通して、自身の関わり方を伝えていきたいと思っています。結果、皆が必要なケアを考えていけるようになっていくことが、看護の質の向上に繋がると考えます。また、私には

その役割があると思っています。今は「何かできること」というよりも、「やるべきことは多くある」と思っています。



岩倉幡枝楽生クラブ医療講話



平成26年度の岩倉幡枝医療講話は、9月26日午前11時から「腰痛について」をテーマに岩倉幡枝公民館にて開催されました。講師は京都博愛会病院の三島克之整形外科部長が担当。40名弱の方の参加を得て、有意義なひと時を過ごしました。

講話は、腰痛の原因による分類、治療、予防と再発防止についてと話が進められました。腰痛の8割から9割は、明らかな病変を所見から発見できないものであり、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、圧迫骨折など、原因が分かるものは、残り1割程度であること。予防、再発防止の基本は歩くことであり、坂道や階段を避けて平地を選んで歩くことが良いことや、心因性の要因にも着目することが必要なこと等について簡潔に説明されました。

演題の腰痛は、皆さんにも馴染みのあるテーマだけ



に、講話後の質疑応答では、実生活の中での腰痛予防の方法から、自分の症状についての質問まで、多数の質問が寄せられました。

又講話後の昼食では、病院から用意した弁当に舌鼓をうち、少し秋めいた涼しさも感じられる中、秋の味覚を楽しみました。（京都博愛会病院：相談室）



富田病院（地域）医療講話



平成26年9月26日、今年も富田病院隣接の安楽荘にて、第13回目の開催となる、医療講話を開催しました。今年は、「加齢に伴う眼科疾患 緑内障と眼瞼下垂」と題し、京都博愛会病院眼科部長の上田直子先生にお

越し頂き、講演して頂きました。

近頃、「目が悪くなってきた、見えにくくなってきた。」こうしてまず、メガネ屋さんに行ってはもらいませんか？緑内障は、眼圧を下げ進行を遅らせる治療を行うので、早期発見による早期治療がとても大切だそうですが、初期の頃は自覚症状はあまり見られないとのこと。もし少しでも、見えにくい、など目に違和感を覚えた方や高齢の方は、まずは眼科へ相談しましょう。早期治療につながるかもしれません。また、肩こりがひどい、頭が重い、目の奥が痛い、そんな症状で悩んでおられる方はおられますか？その原因は、眼瞼下垂かもしれません。眼瞼下垂の方には、おでこにしわが寄る、目の上がくぼむといった特徴があるそうです。通常、瞼にある筋肉で目を開けていますが、眼瞼下垂の状態になる

と、その筋肉の力が弱まり、他の筋肉を代用して動かそうとする為、肩こりなどの周辺症状が出てくるのです。そんな方は、瞼の上にテープを貼ってみて下さい、と改善策、貼り方を教えて頂き、ご来場頂いた方々は口々に、「やってみよう。」とおっしゃっていました。帰り際には、「聞きに来て良かった。」と言って頂き、皆様の今後につなげられたのではないかと考えております。

今後も地域の病院として、皆様のお役にたてるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

（富田病院：相談室）



京都博愛会病院

TEL:075-781-1131 〒603-8041 京都市北区上賀茂ケシ山1
<http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/hakuai/>

富田病院

TEL:075-491-3241 〒603-8132 京都市北区小山下内河原町56
<http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/tomita/>

訪問看護はくあい
ステーション

TEL:075-491-2711 〒603-8041 京都市北区上賀茂ケシ山1
http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/hakuai_nursing/

デイケアセンターとみた

TEL:075-491-0700 〒603-8132 京都市北区小山下内河原町69
http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/tomita_care/

予防接種法施行令等の一部が改正され、平成26年10月1日から
高齢者肺炎球菌ワクチンの予防接種が定期接種化されました。



◆ワクチンについて

肺炎球菌によって起こる主な病気には、肺炎、気管支炎等の呼吸器感染症や副鼻腔炎、中耳炎、髄膜炎、敗血症等があります。特に免疫のはたらきが十分でない高齢者や慢性疾患をお持ちの方は重篤化するおそれがあるなかで、近年は抗生物質が効かない薬剤耐性菌が増えており治療が困難な場合もあるので、ワクチンにより病気を予防することが大切になってきました。

定期接種では「ニューモバックスNP（23価肺炎球菌
莢膜ポリサッカライドワクチン）」を1回接種します。個人差はありますが、1回の接種で5年以上効果が期待できます。

◆対象者

次の(1)及び(2)に該当する京都市民の方

ただし、過去にこのワクチンの接種を受けられた方は対象者から除きます。

(1)平成26年度に65・70・75・80・90・95・100歳以上となる方

平成26年度に各年齢になる方

(2)60歳以上65歳未満の方で、心臓・腎臓・呼吸器の機能・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害を有する方

平成26年度（平成27年3月まで）に各年齢になる方	
65歳	昭和24年4月2日生から昭和25年4月1日生
70歳	昭和19年4月2日生から昭和20年4月1日生
75歳	昭和14年4月2日生から昭和15年4月1日生
80歳	昭和9年4月2日生から昭和10年4月1日生
85歳	昭和4年4月2日生から昭和5年4月1日生
90歳	大正13年4月2日生から大正14年4月1日生
95歳	大正8年4月2日生から大正9年4月1日生
100歳	大正3年4月2日生から大正4年4月1日生
101歳以上	大正3年4月1日以前に生まれた方

◆料金(医療機関で支払う金額)

4,000円

ただし、市府民税非課税の方は、高齢者肺炎球菌
予防接種自己負担区分証明書を接種日に医療機関に提出することにより軽減されます。保健センター等で申請してください。

(お問い合わせ先：保健福祉局 保健衛生推進室 保健医療課（京都市保健所） 電話：075-222-4421)

(1)市・府民税非課税者（2,000円）

(2)生活保護受給者、中国残留邦人等支援給付受給者（無料）

※今年度の対象者以外の方でも

全額自己負担〔7,560円（税込）*〕で予防接種が受けられます。 *医療機関によって金額が異なります。

◆接種方法

1回0.5mLを筋肉内又は皮下に注射します。

他のワクチンとの接種間隔

通常、生ワクチンの接種翌日から27日以上、不活化ワクチンの接種翌日から6日以上間隔を置いて接種。医師が必要と認めた場合は、同時に接種することができます。

◆副反応は？

稀に報告される重い副反応としては、アナフィラキシー様反応、血小板減少、ギランバレー症候群、蜂巣炎様反応等が報告されています。その他、注射部位の疼痛・発赤、全身倦怠感、筋肉痛のような報告があります。

◆再接種について

今回は対象外ですが、初回接種から5年以上経過した後、肺炎球菌による重篤疾患に罹患する危険性が極めて高い方は医師が必要と判断した場合、再接種が可能です。

誤って5年以内に再接種した場合、注射部位の疼痛、紅斑、硬結等の副反応が、初回接種よりも頻度が高く、程度が強く発現するとの報告がありますので、「接種歴」を必ず記録しておいてください。

◆接種希望の方

現在当院に通院されている方は、各診療科での受診時にご相談ください。

上記以外の方は医事課窓口、または電話（075-781-1131（代））でお問い合わせください。

高齢者が肺炎になる原因は肺炎球菌だけではなく、「誤嚥」やその他の細菌による場合もあるので、必ず防げるものではありません。肺炎の予防のために、日頃からうがい・手洗い・マスクの着用などを行い、歯磨きなどで口腔内を清潔に保ち、禁煙や規則正しい生活を心がけましょう。



健康講演会 講師：鹿毛眞人 先生(富田病院内科部長)



健康相談(富田病院上田院長)

第15回はくあい健康まつり

15回目となる「はくあい健康まつり」を昨年11月15日(土)に開催いたしました。
当日はやや肌寒かったものの天気にも恵まれ、患者さんや近隣住民の方々に多数
ご参加いただき、盛況なまつりとなりました。 はくあい健康まつり実行委員会



[左上・左下]チンドン屋(ボランティア)

[右上]バザー [右下]模擬店